

II. 日本鳥類目録改訂第7版で「検討中」とした種および亜種について

池長裕史・川上和人・柳澤紀夫
(目録編集委員会・記録グループ)

はじめに

日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会 2012: 以下「7版」という。)では、Appendix Bに「検討中の種・亜種」(以下「検討種」という)として83の種および亜種を掲載した。これは日本鳥類目録改訂第5版(日本鳥学会 1974: 以下「5版」という)で目録から除かれた27の種および亜種、ならびに日本鳥類目録改訂第6版(日本鳥類目録編集委員会 2000: 以下「6版」という)で検討中とされた34種および亜種を大きく上回る。検討種は、2011年末までに目録編集委員会に寄せられた情報で、本掲載基準に満たなかったもののうち、誤認であることが明らかとなった、飼育個体からの逸出と判断された、あるいは出典が不明である等、記録の信憑性が極めて低いケースを除き列挙したものである(参考 池長ら 2012)。

検討種とする条件は、基本的に6版の考え方を踏襲した。ただし、7版では該当種の亜種名が不明の場合も目録に掲載することにしたため、検討種とした理由は大まかに次の5項目となる。

1. 同定可能な写真または標本がない。この場合の「標本」には、個人所有で、他の研究者が調査を希望しても、それが不可能なようなものを含めない。
2. 同定に疑問がある。
3. 自然分布とするには疑問がある。
4. 目録編集時点で、論文、または十分に識別できる写真を掲載した刊行書籍等として公表されていなかった。
5. 対象となる種または亜種に、分類の再検討が必要である。

また、自然分布とするには疑問がある種のうち、飼育個体からの逸出の可能性が極めて高いと判断された種については本欄に掲載していない。

6版においては「論文」の対象誌として「日本鳥学会誌」、「山階鳥類研究所報告」、「Strix」が挙げられ、目録編集委員会として「各地の野鳥の会会報掲載の記録は採用しない方針」が示されている(藤巻 1987)。7版においては、鳥学会誌等の査読論文として発表されている場合は、基本的に

掲載することとし、その他の論文、刊行書籍等についても十分に識別できる写真の掲載を条件とした。インターネット上の個人のホームページやブログ等において写真が掲載される事例も多くなっているが、個別の記録をアーカイブとして永続保存されるシステムにはなっていないため、一過性の公表とならざるを得ない。このため、論文や刊行書籍、標本と同様に扱うことができず、日本産鳥類としての掲載の根拠とはしなかった。7版の検討種にはそのような情報源による記録も多く含まれており、今後の印刷物への公表を期待する。

なお、検討種の和名の取り扱いについては、7版の「はじめに」に記している。

また、7版で検討種として掲載したバミューダミズナギドリ *Pterodroma cahow* およびキタシマアオジ *Emberiza aureola aureola* については、それぞれ新規掲載種の情報収集、および「日本鳥類目録改訂第5版で除外された種および亜種の検討について」の過程で検討した種および亜種であるが、記録の出典自体が不確実であることが判明したため、本稿では除外した。

日本鳥類目録改訂第7版で「検討中」とした種および亜種について

1. オオマガン *Anser albifrons gambelli*

【記録の出典について】

6版掲載種であり、「本州(AV:宮城, 1966年, 千葉, 1925年)」の記述がある。5版では宮城県の記録は伊豆沼と福田町の記録で写真によるものであり、千葉県の記録は手賀沼の記録で標本を喪失したとされている。

本亜種は、分類の再検討が必要と考えられたため、検討種とした。

2. チュウカナダガン *Branta canadensis parvipes*

【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

アラスカ中部から、カナダのプレーリー地方に繁殖分布し、アメリカ合衆国南部で越冬するカナダガン *B. canadensis* の1亜種である(del Hoyo et al. 1992; Dickinson 2003; Clements 2007)。

(2) 記録の経緯

2006年3月12~23日に北海道平取町で、その後同年4月15~24日に北海道手塩町で、おそらく

同一個体の成鳥と考えられる1羽が観察されている (Ikawa & Ikawa 2011). 北海道で観察された時期から、本州以南で越冬した個体の移動期の記録の可能性がある。

種および亜種の野外識別について十分検討された論文であることから、掲載要件を満たしていると考えられるが、著者は表題に“Probable Wild”として野生化個体であることについて検討の余地を残していることから、検討種とした。

3. チュウショウカナダガン *Branta hutchinsii taverneri*

【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

アラスカ半島からマッケンジー・デルタに繁殖分布し、メキシコで越冬するシジュウカラガン *B. hutchinsii* の1亜種 (del Hoyo et al. 1992; Dickinson 2003; Clements 2007).

(2) 記録の経緯

亜種シジュウカラガン *B. hutchinsii leucopareia* に似たガンで、体サイズがマガン *Anser albifrons* 相当に大きく、頸の黒色部の下に白い輪が入らない個体が宮城県や北海道でマガンの集団内でときおり観察されており、本亜種である可能性が考えられる。北海道で2009年、2010年の観察情報があり、ネット上の画像掲示板に掲載されている (先崎啓究 私信)。ただし、目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

4. ホンケワタガモ (オオケワタガモ) *Somateria mollissima*

【記録の出典について】

本種は5版において掲載が見送られていた種であり、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

5. キタホオジロガモ *Bucephala islandica*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

北米中北部の太平洋側と大西洋側に分布し、亜種は認められていない。大きな渡りはせず、非繁殖期に内陸の繁殖地から沿岸に移動するとされる (del Hoyo et al. 1992).

(2) 記録の経緯

1987年3月26日に北海道上磯郡上磯町函館湾

で雄1羽、雌3羽が観察され「スケッチあり」とされている (日本野鳥の会野鳥記録委員会 1987). また、1997年2月13日に北海道根室市春国岱で雌2羽を観察したという情報 (無記名 1997) や1998年12月5日から1999年2月11日に石川県七尾湾西で観察されたという情報 (平野 1999) 等がある。ただし、目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

6. オウギアイサ *Lophodytes cucullatus*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

北米中北部に分布し、亜種は認められていない。非繁殖期に内陸の繁殖地から、北米東部の繁殖個体群は中南部の大西洋側に、北米西部の個体群は太平洋側に移動する (del Hoyo et al. 1992).

(2) 記録の経緯

北海道ウトナイ湖で1997年1~5月の観察情報がある (真木・大西 2000). 北山 (2002) に1997年3月の記録としてスケッチと行動の記述があり、環境省自然環境局 (2001) には1997年5月20日の記録として「雄1羽、カワアイサと同一行動」の記述とともに、「現地調査で確認されたオウギアイサは、日本では初記録であった」とされているが、飼育個体からの逸出の検討を含め、具体的な報告はない。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

7. カノコバト *Streptopelia chinensis chinensis*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

インドから中国南部、東南アジアにかけて広く分布し、3亜種にわけられているが、いずれも留鳥とされている。日本の近隣では、台湾に基亜種が分布する (del Hoyo et al. 1997).

(2) 記録の経緯

2008年9月9日に沖縄県西表島祖納アーラ地区の水田で2羽の観察情報がある (高原建二 私信).

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

8. オナガバト *Macropygia tenuirostris*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

台湾からフィリピン諸島に分布し、亜種は認められていない (del Hoyo et al. 1997).

(2) 記録の経緯

2006年3月23日に沖縄県与那国島で1羽が観察されている(森河・森河2008)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

9. ワタリアホウドリ *Diomedea exulans*

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら(2012)を参照されたい。

本種は分類の再検討が必要と考えられたため、検討種とした。

10. マダラフルマカモメ *Daption capense*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

南極沿岸の島嶼とインド洋、ニュージーランド周辺で繁殖し、南回帰線以南の海洋に分布する。2亜種に分けられている(del Hoyo et al. 1992)。

(2) 記録の経緯

1997年12月に千葉県銚子沖での観察情報があるとされ(真木・大西2000)、小笠原航路での観察情報がある(大西敏一 私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

11. ウスハジロミズナギドリ *Pterodroma ultima*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

南太平洋のツアモツ諸島、ピトケアン島、オーストラル諸島で繁殖し、非繁殖期は太平洋東部に分布する。亜種は認められていない(del Hoyo et al. 1992)。

(2) 記録の経緯

小笠原航路で複数回観察されているとする情報があるが、詳細は明らかでない(大西敏一 私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

12. ムナフシロハラミズナギドリ *Pterodroma arminjoniana*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

南大西洋のトリンダデ島周辺とインド洋のラウソンド島(モーリシャス共和国)で繁殖する亜種と、オーストラリア北東部からイースター島までの南

太平洋で繁殖する亜種があり、しばしば別種とされている(del Hoyo et al. 1992)。

(2) 記録の経緯

1998年9月7日に小笠原航路で観察された。他にも観察情報があるという(大西敏一 私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

13. クビワオオシロハラミズナギドリ *Pterodroma cervicalis*

【記録の出典について】

6版ではオオシロハラミズナギドリ *P. externa* の1亜種として掲載されており、「本州(AV:岩手, 群馬, 神奈川, 愛知)」の記述がある。また5版では本「亜種」に「オオシロハラミズナギドリ」の亜種和名が付されている。

本種は分類の再検討が必要と考えられたため、検討種とした。

14. ハジロシロハラミズナギドリ *Pterodroma cookii*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

ニュージーランドで繁殖し、太平洋の東部から中部に分布する。亜種は認められていない(del Hoyo et al. 1992)。

(2) 記録の経緯

小笠原航路等で観察情報があるとされる(大西敏一 私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

15. ヒメアシナガウミツバメ *Garrodia nereis*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

太平洋, 大西洋, インド洋の南部の南極に近い島で繁殖し, 周辺海域に分布する。亜種は認められていない(del Hoyo et al. 1992)。

(2) 記録の経緯

2001年9月6日に小笠原航路で, 頭部が黒く翼と体下面が白いウミツバメ類が観察, 撮影されている(森岡照明, 大西敏一 私信)。画像が小さく不鮮明ではあるが, 本種またはシロハラウミツバメ *Fregatta grallaria* の可能性がある。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

16. シロハラウミツバメ *Fregatta grallaria*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

太平洋、大西洋、インド洋南部の南回帰線附近の島で繁殖し、周辺から赤道付近海域に分布する。4 亜種に分けられている (del Hoyo et al. 1992)。

(2) 記録の経緯

記録の情報源は上記と同一。両種のいずれかと考えられるが、1 枚の写真だけでは識別は困難とされる。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

17. コウミツバメ *Oceanodroma microsoma*

【記録の出典について】

本種は 5 版において掲載が見送られていた種であり、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

18. シロハラグンカンドリ *Fregata andrewsi*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

インド洋東部のクリスマス島で繁殖し、インド洋から東南アジアにかけて分布する。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 1992)。

(2) 記録の経緯

2005 年 8 月に北海道紋別港の氷海展望塔オホーツクタワーに飛来したグンカンドリ類について、本種の可能性があるとの議論がある (森岡 2006)。「同個体の腹の白色パッチが五角形であったことから、James (2004) によって検討した」とのことである (森岡照明 私信)。

この形質 (腹の白色パッチが五角形であること) のみで種を断定することは困難と考えられることから、検討種とした。

19. ジャワアカガシラサギ *Ardeola speciosa*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

インドネシア中西部とタイからインドシナ南部に分布し、2 亜種に分けられている。主に留鳥であり大きな渡りはしないが、マレー半島やスマトラに漂行する (del Hoyo et al. 1992)。

(2) 記録の経緯

2010 年 7 月 3 日に沖縄県名護市で観察、撮影さ

れた (2010 年 7 月 9 日付け沖縄タイムス、琉球新報記事)。さらに、9 月 12 日に沖縄県大宜味村で観察、撮影されている (高原建二 私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

なお、その後、2012 年 8 月 9 日に石垣島で 3 羽が観察、撮影されており (2012 年 8 月 14 日付け石垣経済新聞記事；小林雅裕 私信)、2013 年 10 月 16 日にも石垣島で 1 羽が観察、撮影されている (2013 年 10 月 18 日付け沖縄タイムス記事；小林雅裕 私信)。

20. ブロンズトキ *Plegadis falcinellus*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

分布域は広く、南ヨーロッパ・アフリカ・マダガスカルから中央アジア・南アジア、フィリピン、スラウェシ・ジャワ、ニューギニア・オーストラリアにかけて分布する。さらにアメリカ大陸大西洋岸、西インド諸島、ベネズエラでも繁殖しているが、亜種は認められていない。また、迷鳥として、より広域から記録されている (del Hoyo et al. 1992)。

(2) 記録の経緯

2003 年 7 月 28 日、沖縄県大宜味村大保において観察、撮影され、11 月 4 日まで同所で観察されている (嵩原ら 2003)。

種の同定に問題はないが、著者は本文で、「動物園等からのかご抜けの可能性も完全に否定できない」として「暫定的な観察記録」としていることから、検討種とした。

なお、その後、2012 年 6 月 4 日に沖縄県座間味島で 1 羽が観察、撮影され、6 月 9~19 日に沖縄県金武町の水田で同一個体と考えられる 1 羽が観察、撮影されている (高原建二 私信)。

21. ウズラクイナ *Crex crex*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

西ヨーロッパからシベリア中部、中国北西部まで繁殖分布し、主にアフリカ南東部で越冬する。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 1996)。

(2) 記録の経緯

2010 年 10 月 16~18 日に京都府巨椋で 1 羽が観察、撮影されている (松村 2011；鳥くん 2012；松村伸夫 私信)。長距離の渡りをする種であることから自然分布の可能性もあるが、観察された個

体には嘴に瘤があるため飼育個体からの逸出の可能性が残されており、検討種とした。

22. セイケイ *Porphyrio porphyrio*

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら(2012)を参照されたい。

従来の記録は、いずれも人為的分布と考えられ、検討種とした。

23. クロシロカンムリカッコウ *Clamator jacobinus*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

アフリカ中南部とインド、ネパールからミャンマーにかけて分布し、3亜種に分けられている。アフリカの個体群(亜種)は非繁殖期の移動が知られているが、アジアの個体群(亜種)の移動はよく知られていない(del Hoyo et al. 1997)。

(2) 記録の経緯

1997年5月31日および6月1日に沖縄県西表島で1羽が観察、撮影されている(高原ら2000)。動画からの写真であるため鮮明ではないが、本種とする同定に問題はないと思われる。迷行の可能性もあるが、本種のアジア個体群は留鳥性が高いと思われ、本記録は既知の分布域から離れすぎていることから飼育個体の可能性が残されているため、検討種とした。

その後、2012年7月22日に宮崎県宮崎市生目で1羽が観察、撮影されている(日本野鳥の会宮崎県支部2013a, 2013b)。

24. ムジアナツバメ *Aerodramus vanikorensis*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

フィリピンからセレベス島、ニューギニアを経てバヌアツまで分布する。13(Clements 2007)、または14(del Hoyo et al. 1999; Dickinson 2003)の亜種に分けられている。

(2) 記録の経緯

2007年4月7~9日に沖縄県与那国島で1羽が観察されているとの情報があるが(宇山2011)、私信のみであり、詳細は明らかでない。また、このグループは野外識別が困難と考えられる。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

25. マレーアナツバメ(ジャワアナツバメ) *Aerodramus fuciphagus germani*

【記録の出典について】

(1) 種および亜種の分布の概要

ジャワアナツバメは東南アジアに8亜種が分布しており、本亜種は海南島からマレー半島の沿岸域に分布する(del Hoyo et al. 1999)。

(2) 記録の経緯

2007年4月7~13日に沖縄県与那国島で1羽が観察されているとの情報があるが(宇山2011)、私信のみであり、詳細は明らかでない。一方、真木(2007)に「マレイアナツバメ、与那国島、4月」として年不明の写真が掲載されている。観察に関する情報もなく、1枚の写真のみでは種の判別は困難と考えられる。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

26. クロビタイハリオアマツバメ *Hirundapus cochinchinensis formosanus*

【記録の出典について】

(1) 種および亜種の分布の概要

ネパール、インド東北部、中国東北部等に分布する種のうち台湾に分布する亜種(del Hoyo et al. 1999)。ハリオアマツバメ *H. caudacutus* に類似するが、喉が白くない。

(2) 記録の経緯

2010年4月30日に沖縄県与那国島で、本種とされる観察情報がある(梅垣佑介私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

27. シロハラアマツバメ *Tachymarptis melba*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

西ヨーロッパ南部から中央アジア、中国西部にかけて繁殖分布し、アフリカ、インド等で越冬する。約10の亜種に分けられている(del Hoyo et al. 1999)。

(2) 記録の経緯

2010年9月26日に大阪府と奈良県境の生駒山で撮影されたという、本種と考えられる画像がインターネットの掲示板に掲載されたが、詳細が明らかでないまま消去された(木村壱典私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

28. ヨーロッパアマツバメ *Apus apus pekinensis*
【記録の出典について】

(1) 種および亜種の分布の概要

ヨーロッパから中国北部まで広く分布する種のうち、イラン東部からヒマラヤ、モンゴル、中国まで分布する亜種 (del Hoyo et al. 1999)。アマツバメ *A. pacificus* に似るが、腰は白くない。

(2) 記録の経緯

真木 (2007) に「与那国島, 10月」として年不明の写真が掲載されているが、識別と観察に関する情報はない。また、宇山 (2011) に沖縄県与那国島での2002年4月24日、2003年4月26日、2005年4月13日の観察の記述があるが、写真は掲載されていない。他に石川県舩倉島でも観察情報があるとされる (大西敏一 私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

29. チベットメダイチドリ *Charadrius mongolus schaeferi*
【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

チベット東部からモンゴルに繁殖分布し、タイから大スンダ島にかけて越冬するメダイチドリ *C. mongolus* の1亜種 (del Hoyo et al. 1996)。

(2) 記録の経緯

沖縄県与那国島や本州で本亜種の可能性がある個体が観察、撮影されていることが、インターネット上に掲載されている (川野紀夫, 橋本宣弘 私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

30. クロキョウジョシギ *Arenaria melanocephala*
【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

北米アラスカ西南部に繁殖分布し、北回帰線までの北米西岸で越冬するとされ亜種は認められていない (del Hoyo et al. 1996)。

(2) 記録の経緯

1998年1月に北海道霧多布で、また2006年6月に石川県舩倉島での観察情報がある (山形則男, 前田崇雄 私信) が、写真撮影されていない。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

31. ヒレアシトウネン *Calidris pusilla*
【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

アラスカからカナダ極北部で繁殖し、中南米の沿岸で越冬する。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 1996)。

(2) 記録の経緯

1999年10月5日に島根県において本種と思われる個体が観察、撮影され、報告されている (石本 2000)。また、同個体の野外識別について茂田 (2000) が解説している。しかし、非繁殖期の本種はヒメハマシギ *C. mauri* またはトウネン *C. ruficollis* との野外識別が難しく、同個体の識別について森岡 (2000) により否定的見解が示されている。また、この他に、2001年9月1日に茨城県波崎町 (現神栖市) で本種の可能性がある個体が観察、撮影されている (今井光雄, 川野紀夫 私信) が、種の断定に至っていない。

上記の経緯から、種の識別に検討の余地があると判断されたため、検討種とした。

32. カムチャツカハマシギ *Calidris alpina kistchinski*
【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

ハマシギ *C. alpina* の亜種のうち、オホーツク海北部からカムチャツカ半島を経て千島列島で繁殖する亜種である。越冬地は不詳とされる (del Hoyo et al. 1996)。

(2) 記録の経緯

2008年4月28日～5月20日、大阪で本亜種の可能性のある個体が観察されホームページ上で検討されている (橋本宣弘 私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

33. カラフトハマシギ *Calidris alpina actites*
【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

サハリン北東部で繁殖するハマシギ *C. alpina* の1亜種。越冬地は不詳とされる (del Hoyo et al. 1996; 茂田 2005)。

(2) 記録の経緯

2010年12月30日に茨城県霞ヶ浦周辺の蓮田で観察された個体が、サハリンで標識されたと考えられるフラッグを付けていたことから本亜種の可能性が考えられたが、繁殖期ではなく、渡りの途

中で標識されたものと考えられ、別亜種の可能性がある（茂田良光 私信）。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

ハマシギの亜種のうち、7版に掲載された亜種ハマシギ *C. a. sakhalina* とキタアラスカハマシギ *C. a. arctica* の他に、カムチャツカハマシギと本亜種が日本に渡来している可能性がある（茂田 2001）。さらに、*C. a. centralis*（北東シベリアからコリマ川までの地域で繁殖し、インドから中国南西部で越冬する）および *C. a. pacifica*（アラスカ南西部で繁殖し、北アメリカ太平洋岸で越冬する）も、その繁殖域から迷行する可能性が考えられ、今後の精査が待たれる。

34. オビハシカモメ *Larus delawarensis*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

カナダ中央部からアメリカ合衆国北部で繁殖し、北米南部から中米および大アンティル諸島沿岸で越冬する。亜種は認められていない（del Hoyo et al. 1996）。

(2) 記録の経緯

2002年1月19日に千葉県銚子市の漁港で観察されて以来、同市と利根川を隔てた対岸の神栖市の漁港で、本種（和名を「クロワカモメ」として）とされる個体が連年記録されている（桐原ら 2009）。しかし、同個体とカモメ *L. canus* との相違点は、ほぼ嘴の黒色部のみであることから、カモメの個体変異である可能性も捨てきれない。また、カモメと本種との交雑が知られていることから（McCarthy 2006）、その可能性も含め検討が必要である。

写真図鑑に掲載されているが、本種の場合は学術報告または学術論文による公表が必要と判断し、検討種とした。

35. カリフォルニアカモメ *Larus californicus*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

カナダ中央部で繁殖し、北米中部から南部にかけて太平洋沿岸で越冬する。2亜種に分けられている（del Hoyo et al. 1996）。

(2) 記録の経緯

1988年5月1日に神奈川県三浦市江奈湾で第3回夏羽とされる個体が観察、撮影されている（氏原・氏原 1998）。

単独で観察された個体について、静止時のプロポジション、頭部の形状および脚の色によって本種と結論づけているが、この特徴のみで種を断定することは困難と思われ、検討種とした。

36. カスピセグロカモメ *Larus cachinnans cachinnans*

【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

キアシセグロカモメ *L. cachinnans* の基亜種。黒海からカスピ海沿岸、カザフスタン東部に繁殖分布し、東南アジアから中東、アフリカ北東部で越冬する（del Hoyo et al. 1996）。

(2) 記録の経緯

本亜種と考えられる個体が、2009年1月に千葉県銚子市で観察されたというインターネット上の情報や、2009年4月4日北海道積丹町で観察されたという情報がある（大西敏一 私信）。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

37. コバシウミスズメ *Brachyramphus brevirostris*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

アラスカとアリューシャン列島、チュトコ半島沿岸部で繁殖し、周辺海域に分布する。亜種は認められていない（del Hoyo et al. 1996）。

(2) 記録の経緯

1986年3月27日北海道浜中で1羽が観察されたという記録（藤巻 2010）や、2004年11月28日に神奈川県城ヶ島で本種の可能性が高い1羽の観察記録（神戸 2005）がある。また Carter et al. (2011) により南東ロシアと日本での過去と最近の出現状況が取りまとめられているが、いずれも国内の記録はスケッチのみであり写真等は掲載されていない。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

38. セグロウミスズメ *Synthliboramphus hypoleucus*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

北米カリフォルニア沿岸で繁殖しており、非繁殖期は周辺の太平洋東部沿岸に分布する。2亜種に分けられている（del Hoyo et al. 1996）。

(2) 記録の経緯

2009年6月27日に千葉県銚子市沖で本種と思

われる観察，撮影記録がある（深川正夫 私信）。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため，検討種とした。

39. アメリカウミスズメ *Ptychoramphus aleuticus* 【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

アリューシャン列島，アラスカ南部からカリフォルニア半島にかけての東太平洋沿岸で繁殖し，非繁殖期は周辺海域に分布する。2 亜種に分けられている（del Hoyo et al. 1996）。

(2) 記録の経緯

1997 年 1 月 10 日に北海道納沙布岬での観察情報がある（高田 2001）。また，2005 年 3 月 19 日に大洗－苫小牧航路で本種と思われる写真が撮影されている（深川正夫 私信）。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため，検討種とした。

その後，2013 年 2 月 9 日に八戸－苫小牧航路で本種と思われる 1 羽のウミスズメ類が観察，撮影され（白石昭彦 私信），さらに 2013 年 7 月 11 日に落石ネイチャークルーズで本種と考えられる 1 羽が観察，撮影されている（坂井 2013）。

40. シロガシラトビ *Haliastur indus*

【記録の出典について】

5 版において掲載が見送られていた種であり，過去の記録とその検討については池長ら（2012）を参照されたい。

沖縄県宮古島での 1983 年 5 月 19 日の記録は自然分布の可能性があるが，目録掲載の根拠となる出版物がなかったため，検討種とした。

41. ヒメハイイロチュウヒ *Circus pygargus*

【記録の出典について】

5 版において掲載が見送られていた種であり，過去の記録とその検討については池長ら（2012）を参照されたい。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため，検討種とした。

42. チョウセンオオタカ *Accipiter gentilis schvedowi*

【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

ウラルからアムール地方，千島，中国中南部にかけて分布する，オオタカ *A. gentilis* の 1 亜種。ヒ

マラヤからインドシナ半島北部で越冬する（del Hoyo et al. 1994）。

(2) 記録の経緯

5 版に掲載されており，「北海道（B），南千島，本州（新潟，長野）」の記録と共に「北海道で繁殖しているのは，本亜種であろうと考えられる」としているが，6 版には掲載されていない。北海道で繁殖する個体群の扱いについては Morioka（1994）によるものと思われる。

一方，2004 年 9 月 10 日に北海道鶴川町で本亜種の可能性がある個体が観察，撮影されている（初野 2005）。撮影，掲載された写真のみで本亜種と断定することが困難であること，また，本亜種は飼育事例もあると考えられることから，交雑個体である可能性を含め，自然分布と断定することも困難と判断する。

目録掲載の根拠となる出版物がなく，分類の再検討も必要と考えられたため，検討種とした。

43. カムチャツカケアシノスリ *Buteo lagopus kamtschatkensis*

【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

カムチャツカ半島に繁殖分布するケアシノスリ *B. lagopus* の 1 亜種。おそらく東アジア中部で越冬する（del Hoyo et al. 1994）。

(2) 記録の経緯

日本野鳥の会野鳥記録委員会（1992）に，1981 年 1 月 15 日に青森県三沢市仏沼で観察されたケアシノスリ 1 羽について「クロケアシノスリ」として本亜種名が付され「本邦初記録」とされ，1992 年 2 月 16 日の青森県百石町の記録についても「クロケアシノスリ」とされている。その後，森岡ら（1995）において，カムチャツカケアシノスリとして整理され，青森県の他の事例と共に記述された。その後，亜種ケアシノスリ *B. l. menzbieri* 成鳥羽衣等について検討され，森岡（2001a）は，両亜種の野外識別が困難であることを報告している。

亜種の識別に検討の余地があり，また目録掲載の根拠となる出版物がなかったため，検討種とした。

44. クロケアシノスリ *Buteo lagopus sanctijohannis*

【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

アラスカからカナダ北部に繁殖分布するケアシノスリの 1 亜種，アメリカ合衆国中南部で越冬す

る (del Hoyo et al. 1994).

(2) 記録の経緯

前記亜種と混同されていたことがある。2009年12月～2010年2月に北海道で本亜種と考えられる個体が観察、撮影されており、インターネット上に掲示されている (先崎啓究 私信)。前亜種とは異なり、本亜種とされる特徴を備えた個体であるが、目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

45. ソウゲンワシ *Aquila nipalensis*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

ロシア西部から中国東北部で繁殖し、アフリカ南部から中東、インド、アジア南部で越冬する。2亜種に分けられている (del Hoyo et al. 1994)。

(2) 記録の経緯

2000年1月22日に静岡県豊岡村で本種とされる個体が観察、撮影されている (伊藤 2001; 森岡 2001b)。しかし、同個体は鷹匠による飼育個体由来との情報があり (森岡照明 私信)、人為分布とされる。また、1999年2月に岡山県恩原高原で本種の可能性がある個体が撮影されている (中塚・柳生 2007)。写真1枚のみで、近似種との識別についての記述がなく、種の断定は困難であると考えられる。これらの理由から、検討種とした。

46. ウスハヤブサ *Falco peregrinus calidus*

【記録の出典について】

本亜種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

他の亜種との野外識別は難しいと思われ、また目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

47. カラアカモズ *Lanius cristatus cristatus*

【記録の出典について】

5版において掲載が見送られていたアカモズ *L. cristatus* の基亜種であり、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。亜種ウスアカモズ *L. c. confusus* との野外識別は難しいと思われるが、標本が現存していることから、精査する必要がある。

亜種の識別に検討の余地があり、また目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

48. ウスアカモズ *Lanius cristatus confusus*

【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

アカモズの1亜種であり、モンゴル東部、ロシア東南部、中国東北部に繁殖分布し、マレー半島南部からスマトラ島で越冬する (del Hoyo et al. 2008)。

(2) 記録の経緯

7版に掲載されている亜種シマアカモズ *L. c. lucionensis* および亜種アカモズ *L. c. superciliosus* とは異なる羽衣のアカモズが、渡りの時期の日本海側の離島でしばしば観察されている。本亜種または隣接地域に分布する前記亜種である可能性があるが、野外識別は難しいと思われる。

亜種の識別に検討の余地があり、また目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

49. タイワンヒバリ *Alauda gulgula*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

中央アジアからインド、中国、東南アジアに、主に留鳥として分布する。8亜種に分けられており、日本の近隣では台湾とフィリピンに亜種 *A. g. wattersi* が分布している (del Hoyo et al. 2004)。

(2) 記録の経緯

日本産鳥類記録委員会 (2006) で、1996年と1997年の与那国島での記録が整理されている。この他に、1999年11月に沖縄県金武町で2羽の観察情報がある (1999年11月30日付琉球新報記事)。また、2006年1月7日に沖縄県与那国島でも観察されたと報道されているが (2006年1月11日付八重山毎日新聞記事)、この記録は、宇山 (2011) には記述されていない。さらに2012年10月18日に沖縄県石垣島で観察、撮影された個体が本種であるとインターネット上に掲載されている (小林雅裕 私信)。本種は留鳥性が強いとされるが、台湾に分布していることから八重山地方に迷行する可能性は否定できない。しかし、本種とヒバリ *A. arvensis* の大陸亜種との野外識別は難しいと考えられ、鳴き声を含む総合的な判断が必要となる。

種の識別に検討の余地があり、また目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

50. チャイロツバメ *Ptyonoprogne rupestris*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

ヨーロッパ南部、アフリカ北部から中東、ヒマラヤを経て中国西南部で繁殖し、地中海沿岸とインド西部、中国南部で越冬する。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 2004).

(2) 記録の経緯

2008年5月5日に山口県見島での観察情報があるが、写真撮影されていない (西村雄二 私信).

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

51. クロヒヨドリ *Hypsipetes leucocephalus*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

ヒマラヤから中国中南部、台湾にかけて分布し、分布域の北部の個体群は南に移動する。10亜種に分けられており、日本の近隣では台湾に亜種 *H. l. nigerrimus* が分布する (del Hoyo et al. 2005).

(2) 記録の経緯

2004年3月23日と2006年11月20日に沖縄県与那国島での観察記録があるが、写真撮影されていない (日本産鳥類記録委員会 2007; 森河・森河 2008; 宇山 2011).

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

52. カラウグイス *Cettia diphone canturians*

【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

中国中部、東部に繁殖分布し、中国東部、台湾、フィリピン北部で越冬する (del Hoyo et al. 2006). 本亜種および亜種チョウセンウグイス *C. d. borealis* は、ウグイス *C. diphone* から分割して別種 Manchurian Bush Warbler *Cettia canturians* とされることもある (Kennerley & Pearson 2010).

(2) 記録の経緯

2011年4月22日に島根県美保関町 (現島根県松江市美保関町) において、本亜種とされるウグイスが標識放鳥されている (市橋 2012). また、本亜種とチョウセンウグイスの外見は類似しており、本亜種の越冬域が台湾に及ぶことから、八重山地方等で観察されている亜種チョウセンウグイスとされる個体群は本亜種の可能性がある。

亜種の識別に検討の余地があり、また目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

53. モウコムジセッカ *Phylloscopus armandii*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

中国中部から東北部にかけて繁殖分布し、インドシナ半島北部で越冬するとされる。2亜種に分けられている (del Hoyo et al. 2006).

(2) 記録の経緯

2005年11月10日~12月18日に沖縄県与那国島で、本種とされる観察情報がある (宇山 2011).

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

54. バフマユムシクイ *Phylloscopus humei*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

ロシア中南部からヒマラヤにかけて繁殖分布し、インド東北部からインドシナ半島西部で越冬する。2亜種に分けられている (del Hoyo et al. 2006).

(2) 記録の経緯

1999年5月31日に石川県舳倉島で、本種とされる観察情報がある (大西敏一 私信).

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

55. ニシヤナギムシクイ *Phylloscopus trochiloides trochiloides*

【記録の出典について】

(1) 種および亜種の分布の概要

本亜種は、種ニシヤナギムシクイの基亜種である。本種は東ヨーロッパ北部からシベリア中部で繁殖分布するが、本亜種はヒマラヤ東部から中部、インド北西部から中国中部に繁殖分布し、インド北東部からインドシナ半島中部で越冬する (del Hoyo et al. 2006).

(2) 記録の経緯

日本産鳥類記録委員会 (2005) では本種の和名を「ヤナギムシクイ」として、石川県舳倉島での2記録を掲載している。このうち1999年5月の記録は5月31日である (大西敏一 私信). なお、日本産鳥類記録委員会 (2005) ではヤナギムシクイ *P. plumbeitarsus* の和名を「フタオビヤナギムシクイ」として別に記述している。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

56. アムールムシクイ *Phylloscopus tenellipes*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

ロシア東南部から中国東北部に繁殖分布し、インドシナ半島西部で越冬する。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 2006)。

(2) 記録の経緯

以前はエゾムシクイ *P. borealoides* と同種とされた。鳴き声以外の識別は難しいとされる。1996年5月1日に福岡県宗像市での標識放鳥例があるほか、山形県飛鳥、石川県舳倉島、山口県見島、長崎県対馬、長崎県小値賀島等での観察情報がある (茂田ら 2009; 大西敏一, 渡部良樹ほか 私信)。日本鳥学会大会での口頭発表 (茂田ら 2009) はあるが、目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

なお、その後、2004年5月15日に山形県飛鳥で観察、録音された記録について学術報告されている (大谷 2013)。

上記報告では和名を「ウスリームシクイ」としている。

57. ヒマラヤムシクイ *Phylloscopus reguloides claudiae*

【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

中国中部から東北部に繁殖分布し、インド北東部からミャンマー北部、中国雲南省南部、ベトナム北部、海南島で越冬する (del Hoyo et al. 2006)。

(2) 記録の経緯

2010年10月19日に石川県舳倉島で本種と考えられる観察情報がある (大西敏一 私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

58. マユグロムシクイ *Phylloscopus ricketti*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

中国中部から南部に繁殖分布し、インドシナ半島東北部で越冬する。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 2006)。

(2) 記録の経緯

1991年11月10日に石川県舳倉島で、本種と考えられる個体が観察されている (宇山大樹 私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

59. ダルマエナガ *Paradoxornis webbianus fulvicauda*

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

標本は岐阜県博物館に所蔵されており、同定に問題はないと判断される。論文発表もされている (風間 1984) が、6版で「自然分布とするには疑問がある」と指摘されており、当該個体以外の記録もないため (日本産鳥類記録委員会 2004)、検討種とした。

60. ミミジロチメドリ *Heterophasia auricularis*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

台湾の固有種 (del Hoyo et al. 2007)。台湾中部の森林地帯に生息するが、冬期は沿岸地域でも観察される (方 2008)。

(2) 記録の経緯

2006年10月1日に沖縄県与那国島での観察記録がある (森河・森河 2008)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

61. バイカルオウギセッカ *Bradypterus davidi*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

シベリア中南部から中国東北部に繁殖分布し、インドシナ半島北西部で越冬する。2亜種に分けられている (del Hoyo et al. 2006)。

(2) 記録の経緯

2008年に北海道松前町で捕獲記録があり「シベリアムナフオウギセッカ」として報道されている (2009年10月10日付け北海道新聞記事; 浅井芝樹 私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

62. コバネヨシキリ *Acrocephalus concinens*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

アフガニスタンからカシミール、インド東北部周辺、中国東部に繁殖分布し、ミャンマーからタイ周辺で越冬する。3亜種に分けられている (del Hoyo et al. 2006)。

(2) 記録の経緯

本種と考えられる個体が2006年5月7日に山口県見島で観察、ビデオ撮影されている(西村雄二私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

63. キイロウタイムシクイ *Hippolais icterina*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

ヨーロッパ中北部からロシア西部に繁殖分布し、アフリカ中南部で越冬する。亜種は認められていない(del Hoyo et al. 2006)。

(2) 記録の経緯

1995年10月13日に石川県舳倉島での観察情報がある(渡部良樹私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

64. マミハウチワドリ *Prinia inornata*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

インドから中国南部、東南アジアに留鳥として分布する。10亜種に分けられており、日本の近隣では台湾に亜種 *P. i. flavirostris*、中国東部に亜種 *P. i. extensicauda* が分布する(del Hoyo et al. 2006)。

(2) 記録の経緯

1986年3月18日に沖縄県渡嘉敷島で観察情報がある(McWhirter et al. 1996; 日本産鳥類記録委員会 2005)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

65. ミドリカラスモドキ *Aplonis panayensis*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

インドシナ半島東部、インドネシア、フィリピンの島々に留鳥として分布する。14亜種に分けられている(del Hoyo et al. 2009)。

(2) 記録の経緯

1998年3月27日に沖縄県西表島で成鳥1羽が観察、撮影された(沖縄野鳥研究会 2002)。その後、沖縄県与那国島で2003年4月10日に若鳥1羽、2010年4月7~10日に若鳥1羽が観察されている(宇山 2011; 土方秀之 私信)。さらに2012年12月7日に石垣島でも幼鳥とされる1羽が観察、撮影されている(2012年12月9日付け沖縄タイ

ムス記事; 小林雅裕 私信)。

本種の同定については問題ないと思われるが、本種は台湾で帰化鳥として問題となっており(方 2008)、八重山地方への飛来個体は自然分布ではなく、人為的由来による繁殖個体群の派生的なものと考えられるため、検討種とした。国内で繁殖してはいないため外来種という扱いにはならないが、八重山地方では今後の侵入を警戒すべき種である。

66. ウタツグミ *Turdus philomelos*

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら(2012)を参照されたい。

6版で「自然分布とするには疑問がある」と指摘されているが、その後自然分布であることを示唆する報告がなかったため、検討種とした。

67. ルリビタイジョウビタキ *Phoenicurus frontalis*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

アフガニスタン東部からヒマラヤを経て中国南西部の高山地帯に繁殖分布し、インド北部からインドシナ半島北部で越冬する。亜種は認められていない(del Hoyo et al. 2005)。

(2) 記録の経緯

2011年5月14~16日に山形県飛鳥で雄成鳥とされる1羽が観察、撮影され、インターネット上に掲示されている(梁川堅治 私信)。

種の同定については問題ないと思われるが、繁殖域は標高3,500 m以上の高山帯であり、越冬地も1,400 m以上の高地とされている(del Hoyo et al. 2005)。このため、自然分布とは考えにくく、また目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

その後、2013年4月7日に沖縄県石垣島で本種の雄個体1羽の観察、撮影情報がある(2013年4月9日付け石垣経済新聞記事; 中本純市 私信)。

68. カワビタキ *Rhyacornis fuliginosa*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

2亜種に分けられており、アフガニスタン東部、ヒマラヤから中国東南部に基亜種が、台湾に亜種 *R. f. affinis* が分布する。基本的に留鳥であるが、冬期に小規模の移動をする(del Hoyo et al. 2005)。

(2) 記録の経緯

1987年3月26日に東京都北区王子石神井川で

雄1羽が観察、撮影され「かご抜け鳥」として扱われている（バーダー編集部1997；川路ら2003）。その後、栃木県栃木市星野（雄1羽2006年11月22日～越冬：日本野鳥の会栃木県支部2007）、山口県下関市（雌1羽2008年12月29日～2009年3月5日；伊豆川哲也 私信）の観察情報がある。

その後2011年2月27日に広島県庄原市で観察された雄1羽の記録が渡辺（2012）によって学術報告され、過去の記録の整理（栃木県の記録を除く）とともに、迷行の可能性についても論じられている。

飼育個体に由来する可能性があり、また7版編集時点では目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

69. コンヒタキ *Myiomela leucura*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

インド東北部から中国中南部、インドシナ北西部と海南島、台湾に留鳥として分布する。3亜種に分けられている（del Hoyo et al. 2005）。

(2) 記録の経緯

1997年5月28日に長崎県男女群島での捕獲記録がある（無記名1998；真木・大西2000；川路ら2003）。無記名（1998）に写真が掲載されているが、種名、日付、場所以外の情報は無い。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

70. オオノビタキ *Saxicola insignis*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

カザフスタン東部からモンゴルに繁殖分布し、主にインド北部からネパールで越冬する。亜種は認められていない（del Hoyo et al. 2005）。

(2) 記録の経緯

2008年3月17日に沖縄県石垣島で本種とされる個体が観察、ビデオ撮影されている（佐藤2009；佐藤 進 私信）。本種である可能性はあるが、限定的な動画のみであり、識別についての説明もないことから、検討種とした。

71. コシジロイソヒヨドリ *Monticola saxatilis*

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら（2012）を参

照されたい。

この他に、1997年9月20日に沖縄県西表島上原で雄1羽の観察情報があるが、写真は撮影されていない（高原建二 私信）。

飼育個体に由来する可能性があり、また目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

72. キムネビタキ *Ficedula narcissina elisae*

【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

キビタキ *F. narcissina* の1亜種として中国東部に繁殖分布し、タイ南部からマレー半島で越冬する（del Hoyo et al. 2006）。

(2) 記録の経緯

2006年5月2日に鳥根県松江市美保関町で標識放鳥されており、日本鳥類標識協会大会で口頭発表されている（市橋ら2009）。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

73. ニシオジロビタキ *Ficedula parva*

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら（2012）を参照されたい。

6版の検討では「オジロビタキ *F. parva* の基亜種」という扱いであったが、7版では、従来日本で記録されているオジロビタキを *F. albicilla* として独立種としたことから別種扱いとした。

その上で、本種の記録について検討したが、下記の問題点が挙げられた。

1. ニシオジロビタキはそれらしい観察が国内に多数ある一方で、学術論文化された記録がないこと。
2. 形態的にオジロビタキとニシオジロビタキの識別には困難な点があること。
3. 大西（2011）において Lars Svensson 氏の意見として、分布から考えてニシオジロビタキが日本に迷行する妥当な説はないと述べており、分布の連続による中間個体群の存在や交雑の可能性に触れていること。
4. 大西（2011）は、日本で越冬する個体のほとんどはニシオジロビタキとあるが、その確認はされていないこと。

ニシオジロビタキが日本に来ている可能性はあるが、目録掲載の根拠となる出版物がなかったた

め、検討種とした。

74. コチャバラオオルリ *Niltava sundara*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

ヒマラヤから中国中部に繁殖分布し、ヒマラヤ南部からインドシナ半島中北部で越冬する。3亜種に分けられている (del Hoyo et al. 2006)。

(2) 記録の経緯

1997年10月23日に沖縄県国頭村での保護、落鳥記録がある (嵩原ら 2000; 日本産鳥類記録委員会 2004)。当該個体の標本は個人所蔵されており、正式な発表がされていない (市田則孝 私信)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

75. ムジタヒバリ *Anthus campestris*

【記録の出典について】

(1) 種の分布の概要

ヨーロッパから中央アジア、モンゴルまで繁殖分布し、アフリカ中部からアラビア半島、インド中部で越冬する。3亜種に分けられている (del Hoyo et al. 2004)。

(2) 記録の経緯

2004年4月19日に沖縄県与那国島での観察情報があるが、写真は掲載されていない (日本産鳥類記録委員会 2007; 宇山 2011)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

76. コセジロタヒバリ *Anthus gustavi menzbieri*

【記録の出典について】

5版において掲載が見送られていた亜種であり、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

亜種の識別に検討の余地があるため、検討種とした。標本が現存していることから、精査する必要がある。

77. アメリカタヒバリ *Anthus rubescens rubescens*

【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

カナダ東部、北部からグリーンランド西部、アメリカ合衆国東北部に繁殖分布し、中央アメリカで越冬するタヒバリ *A. rubescens* の基亜種 (del Hoyo et al. 2004)。

(2) 記録の経緯

1985年1月22日と24日に沖縄県金武町での観察情報があるが、写真は掲載されていない (McWhirter et al. 1996)。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

78. サメイロタヒバリ *Anthus spinoletta blakistoni*

【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

ロシア南部の山岳地帯、モンゴルから中国北部、中部に繁殖分布し、パキスタン、インド北部、中国南部に渡る (del Hoyo et al. 2004)。

(2) 記録の経緯

2006年12月に沖縄県金武町で (嵩原建二 私信)、2007年2~3月に鹿児島県奄美大島で (奄美野鳥の会 2007)、本種と考えられる個体が観察、撮影され、インターネット上に掲示されている。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

79. チョウセンカワラヒワ *Chloris sinica ussuriensis*

【記録の出典について】

5版において掲載が見送られていた亜種であり、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

亜種の識別に検討の余地があるため、検討種とした。標本が現存していることから、精査する必要がある。

80. ゴシキヒワ *Carduelis carduelis*

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

写真図鑑等に掲載され (五百沢ら 2000)、種の同定に問題はなく、本種と考えられる鳥が観察されているのは確実であるが、飼育個体由来による可能性があり、学術報告または学術論文による公表が必要と判断し、検討種とした。

81. チョウセンホオジロ *Emberiza cioides castaneiceps*

【記録の出典について】

(1) 亜種の分布の概要

中国東部 (河北省南部) から朝鮮半島南部に分

布するホオジロ *E. cioides* の 1 亜種 (del Hoyo et al. 2011).

(2) 記録の経緯

本亜種の可能性のある個体が 2010 年 1 月 9 日に鹿児島県加計呂麻島で観察されているほか、石川県舳倉島や長崎県対馬で、渡りの時期に観察されているホオジロが亜種ホオジロ *E. c. ciopsis* とは異なるという情報がある (大西敏一 私信)。隣接地域に分布するとされる亜種シベリアホオジロ *E. c. weigoldi* を含めた再検証が必要となる。

目録掲載の根拠となる出版物がなかったため、検討種とした。

上記の各種・亜種の記録および情報の確認にあたり、浅井芝樹、深川正夫、後藤義仁、橋本宣弘、土方秀之、市田則孝、今井光雄、伊豆川哲也、川野紀夫、木村壱典、小林雅裕、前田崇雄、松村伸夫、森岡照明、西村雄二、大西敏一、佐藤 進、先崎啓究、茂田良光、白石昭彦、須川 恒、嵩原建二、鳥飼久裕、梅垣佑介、宇山大樹、渡部良樹、山形則男、山根みどり、梁川堅治の各氏から私信を提供いただいた。また、鳥類目録編集委員会および日本産鳥類記録委員会の各委員から重要なコメントをいただいた。記して感謝の意を表する。

引用文献

- 奄美野鳥の会 (2007) フィールド記録. あまみやまじぎ (70): 26–27.
- バーダー編集部 (1997) かご抜け鳥の世界. Birder 11(3): 10–26.
- Carter HR, Nelson SK & Oka N (2011) Historical and Recent Occurrences of Kittlitz's Murrelets in Southeastern Russia and Japan. J Yamashina Inst Ornithol 43: 1–21.
- Clements JF (2007) *The Clements Checklist of Birds of the World. Sixth Edition*. Cornell University Press, New York.
- del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (1992) *Handbook of the birds of the world. Vol 1. Ostrich to Ducks*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (1994) *Handbook of the birds of the world. Vol 2. New World Vultures to Guineafowl*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (1996) *Handbook of the birds of the world. Vol 3. Hoazin to Auks*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (1997) *Handbook of the birds of the world. Vol 4. Sandgrouse to Cuckoos*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (1999) *Handbook of the birds of the world. Vol 5. Barn-owls to Hummingbirds*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2004) *Handbook of the birds of the world. Vol 9. Cotingas to Pipits and Wagtails*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2005) *Handbook of the birds of the world. Vol 10. Cuckoo-shrikes to Thrushes*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2006) *Handbook of the birds of the world. Vol 11. Old World Flycatchers to Old World Warblers*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2007) *Handbook of the birds of the world. Vol 12. Picathartes to Tits and Chickadees*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2008) *Handbook of the birds of the world. Vol 13. Pendulinetits to Shrikes*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2009) *Handbook of the birds of the world. Vol 14. Bush-shrikes to Old World Sparrows*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2011) *Handbook of the birds of the world. Vol 16. Tanagers to New World Blackbirds*. Lynx Edicions, Barcelona.
- Dickinson EC (ed.) (2003) *The Howard and Moore Complete Checklist of the Birds of the World. 3rd Edition*. Christopher Helm, London.
- 藤巻裕蔵 (1987) 「日本鳥類目録改訂 6 版」の編集. 鳥学ニュース (26): 11.
- 藤巻裕蔵 (2010) 北海道鳥類目録改訂 3 版. 極東鳥類研究会, 美唄.
- 神戸宇孝 (2005) 城ヶ島で観察された白色部分の多いウミスズメ類について. BINOS 12: 67–69.
- 初野 謙 (2005) バードウォッチャーの鳥見帳 チョウセンオオタカ? Birder 19(1): 52–53.
- 方 偉宏 (2008) 台湾鳥類全圖鑑. 貓頭鷹出版, 台北.
- 平野賢次 (編) (1999) 石川野鳥年鑑 1998. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.
- 市橋直規 (2012) 亜種タイワンウグイス *Cettia diphone canturians* を標識放鳥. アルラ (44): 8–9+口絵.
- 市橋直規・山崎智子・茂田良光 (2009) 日本初記録キムネビタキ *Ficedula narcissina elisae* の標識放鳥. 日本鳥類標識協会誌 21: 108–109.
- Ikawa & Ikawa (2011) The Record of a Probable Wild *Branta canadensis parvipes* from Japan. J Yamashina Inst Ornithol 43: 47–56.
- 池長裕史・川上和人・柳澤紀夫 (2012) 検討種の取り扱いについて. 日鳥学誌 61: 158–176.
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の鳥 550 山野の鳥. 文一総合出版, 東京.
- 石本賢治 (2000) 日本におけるヒレアシトウネン *Calidris pusilla* 発見の経緯. ホシザキグリーン財団研究報告 (4): 135–137.
- 伊藤昌利 (2001) ソウゲンワシ発見記. Birder 15(5): 67.
- James DJ (2004) Identification of Christmas Island, Great and Lesser Frigatebirds. Birding Asia 1: 22–38.
- 環境省自然環境局 (2001) 第五回自然環境保全基礎調査生態系総合モニタリング調査報告書. 環境省自然保護局生物多様性センター, 富士吉田.
- 川路則友・平岡 考・池長裕史・梶田 学・亀谷辰朗・金井 裕・西海 功・柳澤紀夫 (2003) 日本産鳥類記録リスト (3). 日鳥学誌 52: 126–135.
- 風間辰夫 (1984) ダルマエナガ日本へ迷行. 鳥 33: 77–78.
- Kennerley P & Pearson D (2010) *Reed and Bush Warblers*. Christopher Helm, London.

- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸 (2009) 日本の鳥 550 水辺の鳥 増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
- 北山政人 (2002) 私のお気に入りの探鳥地. カッコウ (233): 4-9.
- 真木広造 (2007) 鳥風歌 琉球列島の野鳥 真木広造写真集. みちのく映像社, 河北.
- 真木広造・大西敏一 (2000) 日本の野鳥 590. 平凡社, 東京.
- 松村伸夫 (2011) ウズラクイナの日本初記録. Birder 25(2): 46-47.
- McCarthy EM (2006) *Handbook of Avian Hybrids of the World*. Oxford University Press, Oxford.
- McWhirter DM, Ikenaga H, Iozawa H, Shoyama M & Takehara K (1996) A check-list of the birds of Okinawa prefecture with notes on recent status including hypothetical records. (最近の生息状況と参考記録を含めた沖縄県産鳥類目録). 沖縄県立博物館紀要 (22): 33-152.
- Morioka H (1994) Subspecific Status of Certain Birds Breeding in Hokkaido. Mem Natn Sci Mus 27: 165-173.
- 森岡照明 (2000) ヒレアシトウネンの同定への疑問. Birder 14(11): 42-43.
- 森岡照明 (2001a) ケアシノスリの亜種と年齢. Birder 15(11): 42-46.
- 森岡照明 (2001b) 2000年1月22日静岡県磐田郡豊岡村神増に現れた山ワシ類考察. Birder 15(5): 68-69.
- 森岡照明 (2006) バードウォッチャーの鳥見帳 2005年8月16日, 28日北海道紋別市のグンカンドリ類. Birder 20(1): 54-57.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田 隆・山形則男 (1995) 図鑑 日本のワシカ類. 文一総合出版, 東京.
- 森河貴子・森河隆史 (2008) 与那国の野鳥を訪ねて. 個人出版.
- 無記名 (1997) 最近何か出てますか?—野鳥情報ネットワーク—. Birder 11(4): 78-81.
- 無記名 (1998) 鳥類図鑑に出てこない鳥たち. やましな鳥研 NEWS 10(6): 3.
- 中塚通孝・柳生尚志 (2007) 岡山でみた野鳥—中塚通孝写真集—. 吉備人出版, 岡山.
- 日本鳥学会 (1974) 日本鳥類目録改訂第5版. 学習研究社, 東京.
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 三田.
- 日本鳥類目録編集委員会 (2000) 日本鳥類目録改訂第6版. 日本鳥学会, 帯広.
- 日本産鳥類記録委員会 (2004) 日本産鳥類記録リスト (4). 日鳥学誌 53: 110-119.
- 日本産鳥類記録委員会 (2005) 日本産鳥類記録リスト (6). 日鳥学誌 54: 110-122.
- 日本産鳥類記録委員会 (2006) 日本産鳥類記録リスト (7). 日鳥学誌 55: 120-127.
- 日本産鳥類記録委員会 (2007) 日本産鳥類記録リスト (8). 日鳥学誌 56: 192-196.
- 日本野鳥の会宮崎県支部 (2013a) 珍鳥・クロシロカンムリカッコウ宮崎に現れる. 野鳥だより みやざき (233): 22.
- 日本野鳥の会宮崎県支部 (2013b) クロシロカンムリカッコウ沖縄を除き初記録. 野鳥だより みやざき (235): 7-8.
- 日本野鳥の会栃木県支部 (2007) 野鳥情報. おおるり (189): 25.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1987) 野鳥情報・観察記録 1986.8-1987.12. Strix 6: 110-118.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1992) 野鳥情報・観察記録 1991.8-1992.7. Strix 11: 377-382.
- 沖縄野鳥研究会 (編) (2002) 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇.
- 大西敏一 (2011) オジロビタキの謎—ヒガシとニシ, 多いのはどっち? Birder 25(6): 50.
- 大谷 力 (2013) 山形県飛鳥におけるウスリームシクイ *Phylloscopus tenellipes* の記録. 日鳥学誌 62: 171-174.
- 坂井伍一 (2013) 落石ネイチャーグループ—アメリカウミスズメ—. 北海道野鳥だより (173): 6-7.
- 佐藤 進 (2009) 日本の珍鳥映像図鑑—野鳥たちとの奇跡の遭遇—. (株) シンフォレスト, 東京. 【DVD】
- 茂田良光 (2000) ヒレアシトウネンの写真の検討. Birder 14(8): 58-59.
- 茂田良光 (2001) 日本に渡来するハマシギ. Birder 15(10): 42-47.
- 茂田良光 (2005) サハリンのハマシギの現状と保護. Birder 19(1): 66-69.
- 茂田良光・齋藤武馬・岡部海都・Leader PJ (2009) エゾムシクイ *Phylloscopus borealoides* とウスリームシクイ *Phylloscopus tenellipes* の識別. 日本鳥学会 2009年度大会講演要旨集: 67.
- 高田令子 (2001) 根室支庁管内鳥類リスト. 根室市博物館開設準備室紀要 (15): 95-114.
- 高原建二・池長裕史・金城道男・渡久地 豊・金城輝雄・庄山 守 (2000) 沖縄県内において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵標本等により確認された興味深い鳥類の記録について—「沖縄産鳥類目録」補遺—. 沖縄県立博物館紀要 (26): 27-46.
- 高原建二・砂川栄喜・大城亀信・柳澤紀夫・天野洋祐・土方秀之 (2003) 沖縄県内における最近の希少な鳥類の渡来記録について. 南島文化 25: 33-46.
- 鳥くん (2012) 話題の珍鳥出現地を訪ねる (京都府巨椋池干拓地). Birder 26(11): 58-59.
- 氏原巨雄・氏原道昭 (1998) 神奈川県内で観察した北米大陸産のカモメ類について. BINOS (5): 67-72.
- 宇山大樹 (2011) 野鳥の記録 与那国島 2002年3月~2007年1月の678日間の観察記録. 文一総合出版, 東京.
- 渡辺健三 (2012) 広島県庄原市におけるカワビタキ *Rhyacornis fuliginosus* の観察記録. Strix 28: 99-103.